

ご近所のお医者さん

624

齊藤女性クリニック院長

齊藤淳子さん

— 大阪市淀川区

ワクチン接種について思う

「ワクチンは打ちましたか？」と問われても最近ではいろいろあって、何のワクチンかと問うことが多くなりました。18世紀にエドワード・ジェンナーが種痘のワクチンを開発し、種痘予防に使われてから、いままで多くのワクチンが接種されてきました。そして約3年前に始まった新型コロナウイルス感染拡大は初期では、ただ人との接触を断つことしか感染を防御することができませんでしたが、その後、診断法（PCR法）や、驚異的速度で開発されたワクチンによって、新型コロナウイルスの感染が収まりつつありました。しかし、また第8波の襲来が懸念されています。

正確な情報、広く

接種すると子宮頸がんが予防されるといふものです。諸外国に比較して日本では接種率が低く、日本では子宮頸がんが増加傾向にあるため、多くの若年者に接種してほしいものです。このほか、幼少期には数多くのワクチンが義務化されています。21世紀に生きる我々は生まれたときから定期的に接種を受けて、新しい感染症が広がれば新しいワクチンを接種することになりま

す。今後いくつ接種していかねば

ならないのでしょうか。新型コロナウイルスワクチンについても、いろいろな事情から接種しなかった方も多いと思います。

んだ方も多いと思われる。

またインフルエンザウイルスに対してもワクチンを接種する方が多いと思います。これは従来、不活化したもので、副反応の面からは少し安心できるかもしれませんが、副反応の面からは少し安心できるかもしれません。

女性にとっては、子宮頸がん予防ワクチンが世界中で接種されています。子宮頸がんはヒトパピローマウイルス（HPV）によっておこり、思春期に

今後感染症についてはその時々、個人個人が納得してワクチン接種を考えていく必要があります。そのためには正確なワクチン情報が、より広く知らされなければなりません。



（府医師会広報委員会委員）